

布地を介した素材の摩擦感
○松梨 久仁子 島崎 恒藏
(日本女大)

目的 衣服の着用は複数枚の衣服を重ね着したり、また服の構造としてもスカート、ズボンなど衣服自体に裏地が付与されたりもする。このような着用状態を考えると、皮膚面と単一な布素材との摩擦も重要であるが、むしろ皮膚面と複数枚の布地との総合的な摩擦挙動が、衣服着用感を大きく左右すると考えられる。そこで本研究では、実際の衣服着用状態を想定し、人体と外衣の間に存在する布地が素材全体(重ね布)としての摩擦特性に与える影響について検討することにした。ここでは中間に存在する布を裏地やストッキングなどにしぼり、これらの布地を通した状態での摩擦感や摩擦挙動が、1枚の布地単独での摩擦特性と比較してどのように変化するかを検討する。

実験 試料は、表地として織物とニットあわせて32種類の布地、間に挟む布地として裏地や比較的薄地の織物13種類の布地及びストッキング地とタイツ地を選択した。測定には KES-SE 摩擦感テスターを用い、摩擦係数(MIU)、摩擦係数の変動(MMD)、表面粗さの変動(SMD)を測定する。次に、表地の上に裏地やストッキング地などを重ねた状態でMIU、MMD、SMDを測定する。また、MIUとSMDに関しては摩擦子をストッキング地とタイツ地に付け替えた場合についても測定を行った。

結果 裏地やストッキングを介しての摩擦感は、中間に存在する布地の摩擦特性の影響を受けるが、さらに圧縮特性の影響も軽微でないことが示された。